

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

- ①人と動物が共生できる社会の推進のため、地域との連携や協働を図りながら、動物愛護の普及啓発に取り組む。
- ②貸し切り可能な専用利用ゾーンなど、同様施設の中でも県内有数の設備を有する。

目指すべき
施設像

- ①来場者や犬同士が交流するきっかけの場となる施設
- ②動物愛護の普及啓発を推進する上で拠点となる施設

目指すべき
利用者像

- ①犬を飼育する全ての人
- ②動物愛護団体や、動物愛護のイベントに参加する方など

定量的目標
達成指標

- ①年間利用頭数の増 (R1～R3平均：10,516頭/年)
15,000頭/年 ※230頭/年ずつ増加
- ②イベント開催回数 5回/年

定性的目標
達成指標

- ①利用者拡大のため、平日の利用率向上が見込める年代への広報活動を充実させる。
- ②利用者満足度向上のため、季節や天候にとらわれず利用しやすい環境整備を行う。

主な課題と解決策

【課題】

- ①利用者の分析ができておらず、利用者拡大に向けた効果的な取組ができていない。
- ②屋外施設であるため、季節や天候の影響を受けやすい。

【解決策】

- ①利用者の年代等を含めた詳細な利用者調査を行い、利用頻度の高い(低い)年代・時間帯などを分析し、それぞれのターゲットに応じたアプローチで広報活動を行う。
- ②植樹や固定式屋根の増設など暑熱対策を行い、夏場の利用率増加に取り組む。